

序文


東日本大震災により大きな被害を受けた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。人類は文明の進歩により多くの困難や疾病を克服し、敵はないと過信していたのではないのでしょうか。今回の災害により自然に対して無力であったと反省しています。技術を過信し、経済を優先する風潮が我々の中にあったのではと思われまます。

これらを教訓として我々の生き方、人の有り方をもう一度振り返ってみる機会にすべきと思います。特に子ども生活、養育環境について原点に立ち戻り謙虚に考えるべきです。保育政策についても大人の都合や経済的立場が優先され、子どもの視座に立っていないのではと考えるのは私だけでしょうか。私は専門教育を受けた保育士による保育制度は、子どもにとって好ましい制度と考えていますが、無制限な長時間保育、病児保育、病後児保育は小児科医の立場で考えると無批判に受け入れてよいものか疑問です。また、保育を製品生産と同じようにコストを切り詰め、多くの子どもを低コストで保育することが効率的とする考えがあるとすれば賛成できません。保育には一見無駄と思われるような時間と人手とを要します。保育者の子どもへの愛情、人間性、専門的知識、幅広い社会人としての知識と視野、精神的な余裕などが大切です。事故が起こらず、身体が大きくなればそれで良いとする保育内容ではなく、困難に対して自ら考え行動する力、他人への思いやり、社会規範の獲得などがが必要です。乳幼児期は人間形成において一生の中で最も重要な時期です。日本人が本来持っている人を愛し、他人や社会に奉仕する精神を育てるための保育であるべきです。

福祉や医療に企業と同じような競争原理や規制緩和をそのまま持ち込むことは間違えだと思います。子育てや安全には費用が掛かることを理解し、我が国の財政状況を踏まえて保育にどこまで費用をかけるべきか本音で議論するべきです。保育・行政関係者、政策決定者は経済界の偏った考えの人や子どもを知らない一部の学者の意見に引きずられることがないように、また、保育を経済活動に利用されないようすべきです。

話は少し固くなってしまいましたが、小生の趣味は古美術の鑑賞で、それらが作られた時代の人々の生活や考え方を想像することです。最近、松尾芭蕉の俳句と座右の





銘が彫られた鍔を鑑賞しました。そこに「人の短を言うことなかれ、己の長を解くことなかれ」と刻まれていました。これを見て私も大いに反省し、そうすべく努力しているつもりですがなかなかできません。また、後藤宗家十六代揃の小柄を觀賞し、室町、桃山、江戸時代にこれを使っていた人は何を考えていたか想像をめぐらしています。小柄に描かれた画題は儒教の教えや親子の愛情を描いており、自身の行動を戒める内容が多いようです。この時代の指導者は常に自戒して生活していたようです。これらのことから小生も小児科医として子どもたちのために少しでも役に立ちたいと思っています。

今回、「保育園における事故防止と安全管理」を出版することになりました。内容は前著「保育園における事故防止と危機管理マニュアル」を大幅に加筆し、事故防止と安全管理を強く意識したものです。

本書が保育園で献身的に勤務されている園長先生、保育士さん、関係者の皆様に少しでもお役にたてば幸いです。

平成23年 こどもの日に、 田中 哲郎

